

*本コーナーでは、9～12月の年内に試験が実施され、合否が決まること多い総合型選抜（旧AO入試）と学校推薦型選抜を、「年内入試」と総称しています。年内入試支援をテーマとしたVIEWnext高校版 2023年8月号・特集はこちら▶▶



生徒の可能性を引き出す 新進路選択支援

年内入試(*)の募集枠の拡大など、大学入試環境が大きく変化している中で、生徒がより自分に合った進路を選択できるよう、生徒の内面や可能性を引き出すことが一層重要になってきている。そうした支援においては、学校や教師には何が求められるのか、実践事例を通じて考える。

地域の人たちと深くかかわる中で、 自分の生き方や進路を考える

岡山県立邑久高校

同校が目指した生徒の行動変容、そのための教師の支援

生徒

BEFORE



3年次の夏季休業直前に進路変更するなど、希望進路を決められない生徒が少なくなかった。

教師の支援

- 生徒が解決したい社会問題を考えて進路選択をするよう、地域と連携した探究学習「セトリー」を実施。
- 教育活動を通じて得た自分の強みを、生徒が認識するための機会を設けた。

生徒

AFTER



自分の関心や強みを基に進路を考えられる生徒が増えてきている。

社会を深く知るために 地域で学ぶ「セトリー」を実施

3年次の夏季休業直前に進路変更するなど、希望進路をなかなか明確にできない生徒への対応が課題だった岡山県立邑久高校。進路指導課課長の矢野祥子先生は、その要因をこう語る。

「志望する学校や企業を具体的に挙げられても、『社会人になった時に取り組みたいこと』を問うと、言葉に詰まる生徒がほとんどでした。生徒は社会のことを知らないため、自分が社会に出た時にしたいことが明確にイメージできず、その中で進路決定を迫られているのではないかと考えました」

生徒が社会を知る機会を設けようと、2016年度に普通科国公立大学進学コース(*1)において、生徒が地域の人と対話をしながら地元瀬戸内市の課題に取り組み探究学習「セトリー」をスタート。将来やりたいことを考えて進路選択をする生徒が増えてきたことを受けて、20年度には全学科に拡大した(図1)。「セトリー」は生徒の進路意識を変化させたと、教務課課長の関淳先生は語る。

「地域で実際に活動する中で、地域の課題のために自分ができるのかを考え、高校卒業後の自分の姿をイ

メージするようになったことが、希望進路の明確化につながったのだと思います。ある生徒は、「セトリー」で取り組んだ地域の希少生物の保全に関する研究を続けたいと、農学部に進学しました」

自己のあり方・生き方を考えるヒントをつかんでほしいという思いから、「セトリー」では、生徒が地域の人とじっくり対話をする機会を大切にしている。例えば、1年次に行く「地域人インタビュー」では、地元企業の社会人1人に生徒2～3人が約1時間、話を聞く。「人生のターニングポイント」は必ず質問し、それ以外の質問は生徒が事前に考えることとして、生徒主体の活動となるプログラムにした。

2年次に行く「地域課題解決学習」では、生徒が自分たちでテーマを決め、「地元食材の成分分析」や「災害に負けないまちづくり」などの課題に取り組み。地域の支援を受けながら地域の問題に向き合ううちに、問題を自分事と捉えて進路を考えるようになるという。

身につけた強みを認識させ、 今後の学びを考えさせる

23年度は、「セトリー」などを通じてどのような資質・能力を身につけた

*1 2019年度までは普通科に「国公立大学進学コース」「総合進学コース」を設置。20年度に普通科と生活ビジネス科（情報ビジネスコース、保育・食物コース）の2学科に改編。

図1 「セトリー～Be a SETOUCHI Leader～」の3つのStepと、主な活動

目標 ①地域と連携して、地域の問題の解決や活性化に取り組む ②地域での取り組みが現代の問題の解決 (SDGs) につながることに気づく

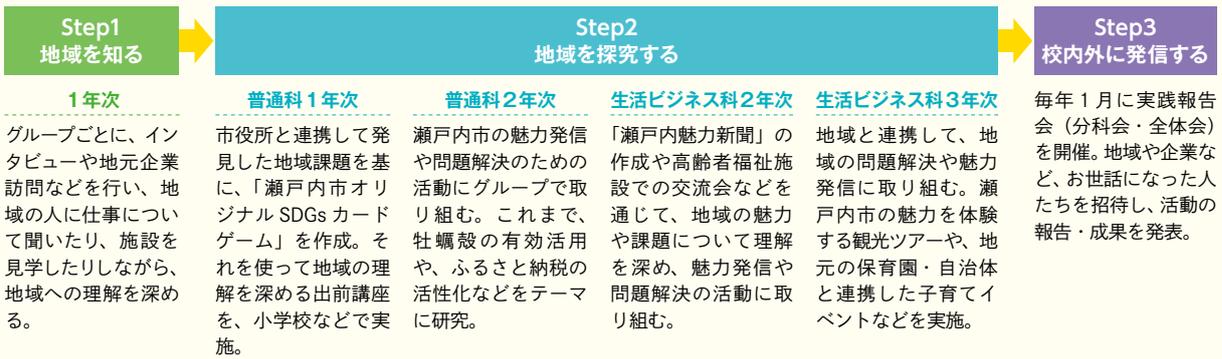


図2 生徒が振り返りで記入した「一番の強みの経験」(例)

振り返ってみよう! (チャート結果や右上の経験説明を見て記入しよう)	1回目(6月)	2回目(9月)
(1) あなたの一番の強みの経験はどの経験か、1つ書こう。(同じスコアのもの複数ある場合は、一番強みだと思うものを書こう)	(他者理解をする) 経験	(他者理解をする) 経験
(2) あなたの強みは、具体的にどんな場面であらわれたと思う?	①学習 ②授業 ③探究活動 ④テスト ⑤資格・検定 ⑥部活動 ⑦ボランティア ⑧海外留学 ⑨委員会、生徒会活動 ⑩その他 文化祭の時の出し物を決める時、相手の意見に合わせるようにした。	①学習 ②授業 ③探究活動 ④テスト ⑤資格・検定 ⑥部活動 ⑦ボランティア ⑧海外留学 ⑨委員会、生徒会活動 ⑩その他 セトリーが普段の授業などの班活動の時にお互いの意見を聞き、自分の意見がけでなく相手の意見もよく理解した。
最もあらわれた場面をひとつ選び、具体的なエピソードを書こう。		
(3) これから意識して積み重ねたい経験を書いてみよう。	(試行錯誤をする) 経験	(課題克服をする) 経験

※図1・2ともに、学校資料を基に編集部で作成。



左上から時計回りに／関 淳(教務課課長、数学科)、出射 恵(進路指導課、1年次担任、地理歴史・公民科)、河野正和(1年次主任、商業科)、矢野祥子(進路指導課課長、国語科)

学校概要

- 設立 1921(大正10)年
- 形態 全日制/普通科、生活ビジネス科/共学
- 生徒数 1学年約120人
- 2022年度卒業生進路実績 国公立大は、鳥取大に1人が合格。私立大は、岡山理科大、川崎医療福祉大、就実大、中国学園大、ノートルダム清心女子大に延べ8人が合格。短大・専門学校進学48人。就職27人。

のかを生徒が振り返る機会を設けるため、1年次の6月、9月に「進路達成プログラム」の試行版(*2)を実施した。同プログラムの試行版の進路適性診断には、どの経験によってどんな力を身につけたのかを記入する欄がある(図2)。その自己評価を繰り返すことで、自己を適切に捉え、自分で力を伸ばすことができるようになるのではないかと、進路指導課の出射恵先生は考えている。

「進路適性診断でまずは自分の強みを認識することが大切です。その上で、『セトリー』で他者と一緒に活動すると、例えば、自分は話すのが強みだと思っても、友人の方が上手に話していた場面に出くわしたら、『自分の強みは何か』を考えざるを得なくなる」と

「進路適性診断での振り返りとなります。進路適性診断での振り返り『セトリー』での自己認識の機会があることで、生徒が自己を深く理解し、自分は何を学ぶべきかを考えられるようになる」と期待しています。

生徒が自己を深く理解することは、年内入試の面接などに向けても重要であるため、一層力を入れていきたいと、1年次主任の河野正和先生は語る。

「『セトリー』で優れた活動を行っていても、活動を通じて何を学び、それを将来どう生かしていきたいのかを、自分の言葉で表現できない生徒が少なくありませんでした。今後、生徒の自己理解力をさらに高めていくことで、活動の意義やそこから得た学びを自分の物語として語れるよう、生徒を支援していきたいと考えています」

*2 「自分の軸を持った進路選択」の達成を支援するためのベネッセの進路学習教材。邑久高校は、進路達成プログラムの試行版を実施。生徒が振り返りに用いた「一番の強みの経験」の記入欄は、2024年に搭載。「進路達成プログラム」の詳細は、ベネッセハイスクールオンラインで紹介しています。ログインにはIDとPWが必要です。下記URL、または右の2次元コードからアクセスしてください。
https://bhs0.benesse.ne.jp/hs_online/info/shinro-pgm/

